



日本共産党
寄谷 猛 男

「(仮称) たきかわ観光国際交流スクエア」の開設について

質問 中心市街地に「(仮称) たきかわ観光国際交流スクエア」を開設するとしているが、情報の収集・発信基地として多くの人に立ち寄ってもらう考えであれば、マイルビルに開設することが市民の期待に沿うものと思われる。どのような経緯で旧中央バスターミナルでの開設に至ったのかを伺う。

答弁 開設目的の機能を推進するに当たり、JR滝川駅やバスの利用者が行き交い、交通の結節点として市民の利便性が高く、地域経済の活性化を図ることなどを鑑みて、滝川の玄関口である旧中央バスターミナルを活用することがふさわしいと判断しました。

質問 インバウンド観光の推進に向け、ホームページやSNSなどを活用した魅力発信を行うとしているが、主に対象としている国や地域、発信する内容について伺う。

例えば中国などの有名な観光地はイメージが浮かぶが、北海道、空知、滝川と地域が狭くなるに従いイメージしにくくなると思うが滝川の魅力を引き出す構想を伺う。

答弁 シンガポールからの国際交流員が、東南アジアをターゲットにインバウンド観光の魅力を発信しています。また、地域おこし協力隊員を配置して台湾やタイでの観光プロモーションを実施し、本市の魅力を海外の観光業者などに情報を発信してきました。外国人観光客のうちとりわけタイからの観光客が飛躍的に伸びている状況です。発信内容については、菜の花やジンギスカン、スカイスポーツなどを基軸として、本市が誇る岩橋英遠画伯、ランタンフェスティバルなどの観光資源の情報を発信しています。

子育て支援について

質問 「第2期滝川市子ども・子育て支援事業計画」を策定するとしているが、子ども医療費無料化の段階的实施、学校給食費無償化についても検討課題とするのか。また、この事業計画から漏れた

場合でも計画実施期間中に再考される余地はあるのか伺う。

答弁 幅広い意見を反映させるため、保護者の方、事業主の方、学識経験者などから組織された滝川市子ども・子育て会議において総合的な計画を策定します。指摘項目についても行財政改革におけるさまざまな検討課題の中を含めて考えていきます。

質問 子育て支援に関するニーズ調査で、未就学児童を持つ保護者は「経済的な負担、不安を感じる」との回答が前回調査に引き続き40%を超え、さらにその割合は上昇している。その重みを受け止め経済的負担を軽減する施策を優先すべきと考えるが、子育て支援事業計画の策定基準、優先順位について伺う。

答弁 アンケートなどの分析しており、さまざまな声があるの承知しています。その声を大事にしながら、今後判断していきます。

学校教育について

質問 市独自のサポート体制として小学校3・4年生を対象に35人学級制度(少人数学級実践事業)

を引き続き推進することとされている。小学校5・6年生、中学校2・3年生まで対象を拡大することについての課題を伺う。

答弁 小学校5・6年生まで拡充する方向で検討していますが、新たな人的配置は大きな財政負担を伴うため、引き続き市全体の政策協議の場で検討していきます。本事業は、児童生徒の生活および学習の両面において、個に応じたきめ細かな指導ができるなどの大きな効果が表れているという調査結果があります。それを踏まえ35人学級の対象学年の拡充を早期に実施するよう国や北海道に要望していきます。

質問 「学校施設の整備については、滝川第二小学校体育館床改修工事を実施するほか、施設の安全点検を定期的に行う」としているが、小・中学校施設の老朽化状況の把握、改築および長寿命化を含めた施設の整備方針を伺う。

答弁 小・中学校における今後の整備方針については、市立高等学校を含めた公共施設全体の個別施設計画策定を進める中で、各施設の具体的な方向性を決めていきます。